



テクニカル・メッセージ

タイロッド定期点検整備について

定期点検整備(3ヶ月)で行われるかじ取り装置の点検の内、ロッド、アーム類の緩み、がた及び損傷点検に含まれているタイロッドの点検において、十分な点検整備を実施せずに使用を続けた場合、最悪タイロッドが脱落し操舵不能に至る場合があります。

つきましては、タイロッドの点検整備方法、交換基準についてお知らせしますので、確実な点検整備を実施して頂きますようお願い致します。

1. 対象

中型トラック レンジャー FC、FD車 及び GC、GD車(ロックナット構造)

2. 点検整備時の留意点

平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキを作動させて下さい。

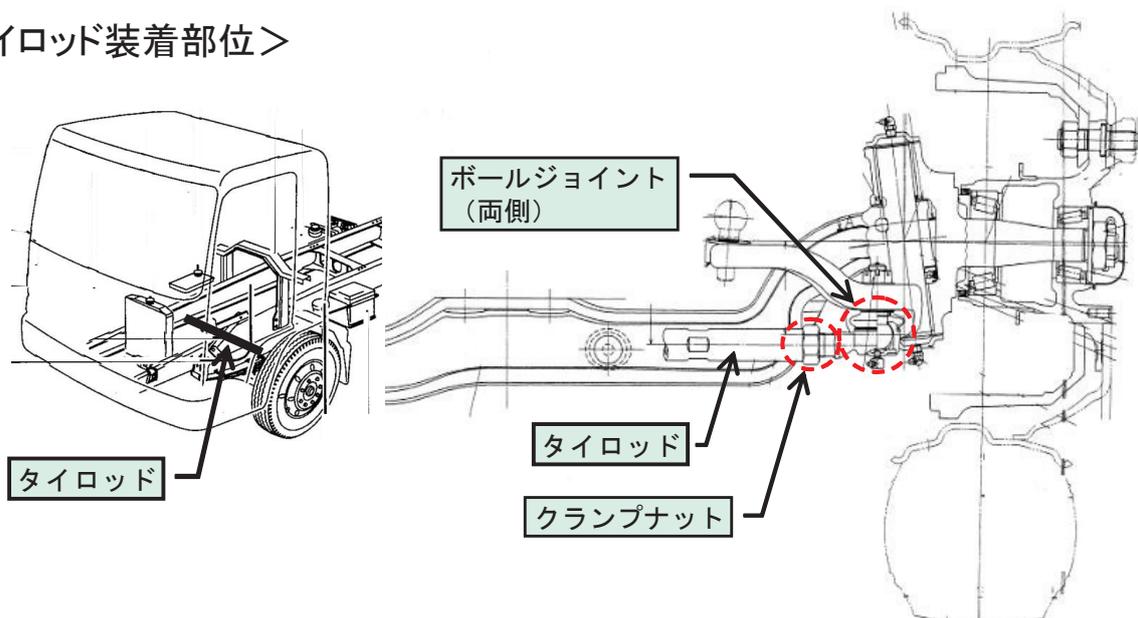
エンジンを停止し、後輪に輪止めをかけて下さい。

3. 交換基準、点検方法

タイロッド点検時は以下の項目を必ず実施して下さい。

- 1) ボールジョイント(左右)のダストブーツの亀裂及び損傷
- 2) ボールジョイント部の緩み、がた及び損傷
- 3) クランプナットの緩み、がた及び損傷

<タイロッド装着部位>



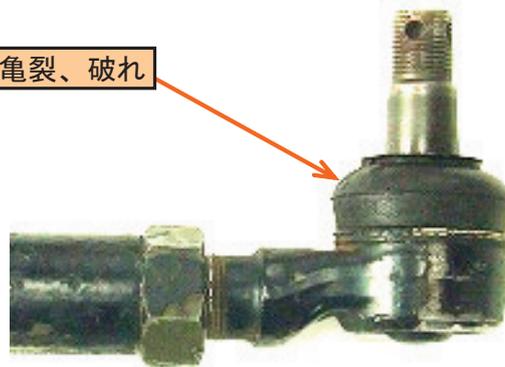
■交換基準(良否判定) 及び 点検方法 (その1)

・ボールジョイントのダストブーツの点検(左右)

交換基準	亀裂	内部まで貫通している亀裂が確認された場合
	損傷	ブーツのめくれ、むしれが有る場合

⇒交換基準に該当する場合は“タイロッドエンドアッセンブリ”を交換して下さい。

ダストブーツの亀裂、破れ

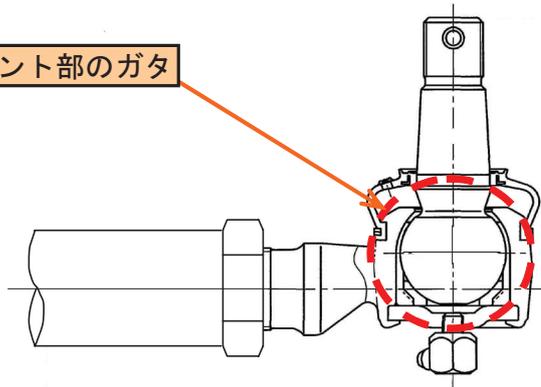


・ボールジョイント部のガタ

交換基準	ガタ	ボールジョイント際のロッドを手で押し、引きした時にボールジョイントが動くことを確認された場合
------	----	--

⇒交換基準に該当する場合は“タイロッドエンドアッセンブリ”を交換して下さい。

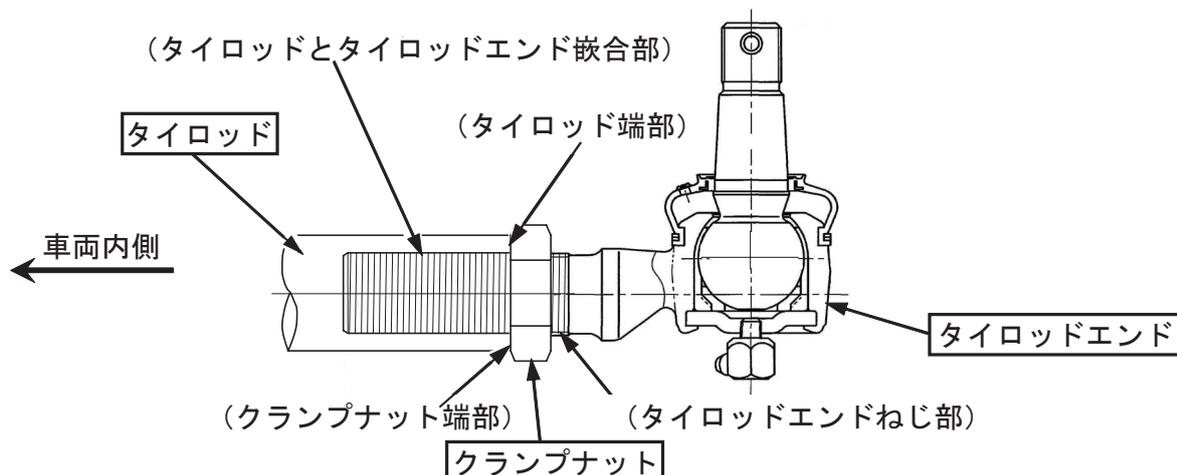
ボールジョイント部のガタ



・クランプナットのガタ

交換基準	ガタ	クランプナット部のタイロッドとタイロッドエンド嵌合部を手で押し、引きした時にロッドが動くことを確認された場合
------	----	--

⇒交換基準に該当する場合は“タイロッドアッセンブリ”を交換して下さい。



■交換基準(良否判定) 及び 点検方法 (その2)

・クランプナットの弛み

点検方法	弛み	増し締めトルクが178Nm以下の場合
------	----	--------------------

⇒ "弛み有り"と判断された場合、以下の方法で再締め付けをして下さい。

- クランプナットを完全に弛め、タイロッドからタイロッドエンドを取り外す。
- タイロッドエンドの嵌合部ネジ山を確認して下さい。

もし、下記のような状態の時はタイロッドアセンブリを交換して下さい。

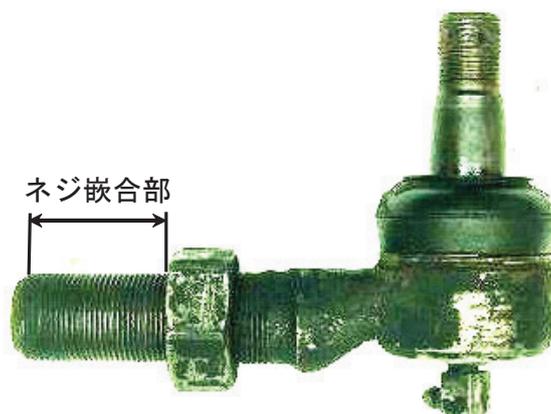
- ・ 嵌合部ネジに錆が有る場合
- ・ 又は、嵌合部ネジ山が摩耗して丸くなっている場合

【サンプル写真】

嵌合部のネジに錆が有る場合
又は、ネジ山が摩耗している場合



タイロッドアセンブリ
を交換して下さい



3. 上記の状態までネジ山がダメージを受けていない場合は以下の手順で再締め付けして下さい。

- ① ネジ部、タイロッドエンド端部のゴミ、錆を取り除く。
- ② ネジ部、タイロッド端部、クランプナット端部にエンジンオイルを塗布する。
- ③ タイロッドを回転させ、トーインを調整する。
- ④ クランプナットを締め付けトルク $195 \pm 25 \text{Nm}$ で締め付ける。

